

豊明市行政評価制度 「事務事業」評価票

1 事務事業の概要

1-1 事務事業の名称	道路パトロール事業							
1-2 担当	部	経済建設部	課 又は施設	土木課	係	維持管理係	評価票作成者	課長補佐兼維持担当係長 朝岡 正志
1-3 総合計画における施策の体系	節	都市基盤・産業振興 「いきいきとした賑わいと活力あふれるまちづくり」			基本施策	道路	コード	3 1 1
	項	道路・交通			単位施策(中)	道路の維持管理	コード	3 1 1 3
		道路・交通			単位施策(小)	危険箇所発見	コード	3 1 1 3 1
1-4 事務事業の目的の精査	対象と対象の数	市道 1,388路線 延長366,441km		意図(対象を事務事業によつてどのような状態にするのか)		良好な市道の状況を保つ。		
1-5 事務事業の内容	道路パトロールの実施により不良箇所の早期発見に努める。							

2 事務事業実施の状況

2-1 事務事業の実施における基本認識	事務事業実施にあたって心がけた改善の取組み		社会状況等の事務事業がおかれる環境把握		市民ニーズの認識	
	平成18年度	生活道路のパトロールを重点的に実施した。直営で実施できることは、その場で行った。	財政状況が厳しい中で、予算を有効に活用する。		個人本意の要望が強くなった。	
	平成19年度	路面の経年劣化による補修を重点的に実施した。直営で実施できることは、その場で行った。	"		個人意識の多様化に伴う対応に迫られた。	
	平成20年度	"	"		"	
	平成21年度	"	"		"	
	平成22年度	季節毎に支障の出やすい項目を重点的にパトロールを実施し、担当者で対応できることはその場で行った。路面の経年劣化については、パトロールの直営応急措置後にまとめて発注するようにした。				
	平成23年度	路面の経年劣化が著しく本年度よりパトロールの時間を増加し舗装の穴埋め等、緊急を要する箇所については、直営にて即対応を心がけた。				
	平成24年度					
	平成25年度					
	平成26年度					
平成27年度						

2-2 総合計画における単位施策成果指標	事務事業成果指標名		前期目標値(単位)	後期目標値(単位)	指標の説明
	不具合・危険箇所発見件数(件)		200(件)	150(件)	道路パトロールによる不具合・危険箇所発見件数の合計。

2-3 成果指標に係る活動実績とコストの推移(アウトプット分析)		平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
	活動実績 a(時間)	416	416	416	416	400	600				
	直接事業費 b(千円)	418	567	460	168	336	332				
	人件費 c(千円)	1,331	1,331	1,331	1,331	1,240	1,800				
	合計コスト d(b+c)(千円)	1,749	1,898	1,791	1,499	1,576	2,132				
単位コスト d/a(千円)	道路パトロール 1時間当たり 1.0	道路パトロール 1時間当たり 1.4	道路パトロール 1時間当たり 4.3	道路パトロール 1時間当たり 3.6	道路パトロール 1時間当たり 3.9	道路パトロール 1時間当たり 3.6	当たり	当たり	当たり	当たり	

アウトプット実績(活動数値)の補足説明 → 維持予算の内、直営で実施した補修作業の原材料費を計上した。
 活動実績=100日×3時間×2人=600時間
 人件費はパトロール業務時間を計上した。 人件費=600時間×3.0(千円)/時間=1,800(千円)

2 - 4 成果指標に 対応する実績と達 成度の推移	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
指標対応実 績（件）	199	187	182	188	242	195				
後期目標値 に対する達 成度（%）	59.2	69.2	73.3	68.3	23.3	62.5				

H16現状値：270、（270 - 現年度実績）÷（270 - 後期目標値）

3 事務事業の自己評価結果

3 - 1 評価結果 (アウトカム自己分 析)	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
単年度 担当課評価	A	A	A	A	A	A				

4段階評価結果 A：上位目的である施策に貢献しているので継続する
B：事務事業の実手法や環境（予算的・人的）に改善が必要
C：縮小等、事務事業としての見直しが必要
D：事務事業の廃止が相当

判断の基準

必要性（必要な事務事業であるか）
公共性（公が実施する意味があるか）
妥当性（ニーズに対して投入が適正か）
効率性（結果に至る活動に無駄はないか）
有効性（活動の結果が上位の目的に貢献しているか）
市民満足度（事務事業が対象にしている市民を満足させているか）

3 - 2 評価の内容	今後の環境変化を踏まえた課題認識	次年度に向けて改善する取組み	事務事業の担当課としての単年度の取り組みの自己評価
平成18年度	交通量の増大に伴い、路面の痛みも早く、危険箇所の早期発見が必要である。	道路パトロールの方法やルートを再検討する。	危険箇所の早期発見に努め、利用者の満足度を高めることができた。
平成19年度	〃	重点地区のパトロールを強化する。	〃
平成20年度	〃	月間で重点項目を掲げパトロールする。	〃
平成21年度	〃	〃	〃
平成22年度	3-1-1-3-2-252道路維持事業との関連が大きく、また苦情・要望など市民からの通報が漸増となってきたため、週2日のパトロールだけにとどまらず、発見した場合はなるべくその場で対応できるものは対応するようにした。その結果、ここ2年道路賠償保険対象事故がないことに繋がっていると思われる。		
平成23年度	道路維持事業との関連が大きく苦情・要望など市民からの通報が漸増となってきたため、週2日のパトロールだけにとどまらず、職員にも啓発し、危険箇所の早期発見に努め、即対応しよう心がけている。		
平成24年度			
平成25年度			
平成26年度			
平成27年度			

4 事務事業の総合評価結果

4 - 1 総合評価の 結果	結果	審査会による改善方向の指示
平成18年度	A	継続して事業を進めること。
平成19年度	A	継続して事業を進めること。
平成20年度	A	継続して事業を進めること。
平成21年度	A	継続して事業を進めること。
平成22年度	A	継続して事業を進めること。
平成23年度	A	継続して事業を進めること。
平成24年度		
平成25年度		
平成26年度		
平成27年度		